

せながむい

発行・古平町史編纂委員会
編集・古平町史編纂室
第十六号（毎月一日発行）
平成三年一月一日

明治初期の古平

人と農業

近藤 芳二

十八世紀後半に始まったとされている「場所請負制」は、新政府の成立と共に明治二年（一八六九）形式上廃止したことになる。

和人進出の拠点でもあり、また、アイヌを支配する拠点でもあった「運上家」（古平では福津さん宅の場所）は、とりあえず「本陣」と仮称され、やがて

明治三年に開拓使「古平出張所」が開設され、数人の役人が常駐することになる。当時の役宅（住宅）現在の役場裏のあたりに四軒の住宅があったと記録されている。

このころから古平は徐々に人口も増加し、最も活気に満ちた時代を迎えることになる。当時はまだ「古平町」ではな

頌春

平成三年元旦



古平町史編纂委員会
委員長 越中 庄司
八木 金蔵
可児 勘

服部 雄
山口 文彦
水見 八郎
津田 宏

吉野 富雄
西館 昌巳
田岸 倉治
村井 芳男
大谷 喜幸
高野 俊和

く、小さな部落がいくつかできていたに過ぎない。しかし、明治二年から村役が選ばれ、自治が始まっていたようである。

村役人々名前前調

明治四年二月

村名	役名	氏名
弁財泊	名主	瀬川吉左衛門
メナシトマリ	名主	中谷 石五郎
メメタレ	組頭	依田有左衛門
ラルマキ	組頭	田岸仁左衛門
浜 中	組頭	山田 友吉
オタスツ	組頭	松川由左衛門
弁財泊	組頭	阿部 六三郎
メメタレ	百姓代	佐々木丑五郎
弁財泊	百姓代	佐々木 岩吉
へ口カルウシ	百姓代	種田幸左衛門
浜 中	百姓代	大泉 半七
メナシトマリ	百姓代	佐々木 松蔵
ラルマキ	百姓代	若狭 多兵衛

以上の通り、村役人が古平詰（役所）に提出されている。

この村役は、明治二年から引き続き村役として記録されているが、いずれも苗字がなかったのか名前のみ記されている。

しかし名前は明治四年の「村役名調」と一致するので、継続していたようである。村役たちは、人口急増によるトラブル防止、税徴収の協力もしていたようである。 — つづく —

消えてしまった
『町の風物詩』

禅源寺の裏の池、願応寺の池（沼といった方がよいか）で、手製の小舟にゴムで回るプロペラをつけ、それを走らせてはよく遊んだ。

土場の横山隆起さんの横の沼

故郷の理想
井寺 年

地のトビウオをつかんで、脊びれを立て、ヨシの茎をさして、潜水艦のように泳がしては楽しんでた。

春夏秋冬、それぞれのふるさとの風の匂い？ が身にしてみている、その時代その時代の生活の匂いや、ふるさとのぬくもりが、いま七十年のおれを包んでいる。そして思い出すのは、先輩や古い友達のことである。雪が消えたあとの、あののかなかな金魚売りの声、天秤かつい

でゆったりと歩くあのおじさんは、余市から来る渡辺さんとかいうオッサンだった。随分お酒の好きな方だったらしい。古平も景気が好かったのかどうか知らないが、旅からの商人がかわるがわる来ていた。こうもり傘の修繕屋さん、きせるの掃除屋さん、錆掛け屋さん、刃物の研ぎ屋さん等々、明治生まれの物

を大切に作る気風があつたんでしよう。季節季節のあの独特の呼び声が、耳底にまだ残っている。用も無いのに、珍しそうにぞろぞろついて歩いては、手慣れた職人の仕事ぶりを興味深く見ていたものだ。

「消費は美德だ」なんて言う今の人には、とても考えられなない風習だった。都会は別としても、クリーニング屋さん等一軒も無く、皆あちこちの小川や井戸端で洗濯をし、着物は、洗い

張りの中広い長い板に、布にのりをつけては張って乾かしていた。ほとんど着物で、学生服を着たのは学芸会に出るので、それに間に合わせて着せられたような気がする。もう足袋をはくことも着物を着るようなこともないでしょう。あるとすれば、人生さよならをする時だけか？ 素足にわらじをはいて、キノコを売っていたあのおじっちゃん、風呂敷に包んだ納豆を背にして売っていたおばあちゃん、皆素朴で、充実して一生を終え

鯨料理 『ぬた』

鯨の調味料理に『ぬた』というのがある。酢味噌あえのことである。

縁起をかつぐ鯨場では、「ミソをつけた」といって凶事としているから、いくらこれを食べたいと思っても、漁期中はこれを作ったりはしない。また、鯨の田楽や、かまくら（味噌漬）も同様に作らない。だが、

鯨場縁起

られたのでしよう。土場の入り口にあった、柳川の豆腐屋さん老夫婦のところへは、よくきらじ（おから）を買に行った。家中に油揚げの匂いがして、今思うと、古い時代のほのぼのとした故郷の匂いであつたようだ。勤勉・実直、毎日毎日、あのラッパを吹いて豆腐を売っていた。生国は何処だったのか、古平には何時ごろから住んでいたのか、そして、何時亡くなられたのか——分からなかつた。

たまには変わったおかずも食べたくなるし、ぬたの味は格別である。

「婆あ、おらあ——ぬだ食えてえなあ。こっそりこさえてけねえがなあ」
次の日、こっそり、

「おらあゆんべ、家さけえてヨ、ぬだば食ってきたであ——」

「おめえ、うめえごどやつたなあ。したども何おぎでもおらあ知らねえど。」

みんなが活動できるもの

会員の年齢層は中広く、二十代から七十代まででした。初めからむつかしいことは計画せずに、地域性をも考え、年間を通してこなせることのみにとどめました。

翌年の春には会員の希望もあって、早速『新生活運動』として、病気見舞いおかし廃止に取り組みました。このことは難しい問題で、町全体がまとまらなければ、なかなか実践出来ないことでした。そんなことが悩みとでも申せましょうか。

バザーで資金造成

また、秋には親睦と運営資金造成のため——というところで、バザー開催の声があがり、年間行事の一つとして以後何年か続けられました。

細から抜いてきたばかりの、土の香のむんむんする大根、葱

沢江婦人会

人参、白菜、キャベツ等々、安価の噂に遠くからお出で下さる方たちもあり、全会員が奉仕作業に楽しく一日を過ごしたこともあります。

おかげで備品のかずかずを購入し、町内会のご好意により、公民館内に食器戸棚が設けられ収めることが出来ました。どなたにでもお貸しして、使っていただくことにしております。

皆が自分の意見を

話合いの時には、遠慮のない意見を交わし、何事にも一致協力できるのが今の特性とでもいいたいでしょうか。たった一つの歯車が欠けても機械は回りません。みんなの気持ちがあがりが、年間行事の一つとして以後何年か続けられました。

生きがいのある生活を

今後は、お互い健康管理とい

うことに充分注意し、会員一人一人がしっかりした意思と、生きがいのある生活をうちたて、この激動の世を渡っていききたいものと思っております。

そして、何時までも若々しい魅力のある沢江婦人会として、育ちゆくことを祈りながら筆をおきます。

(前会長 大沢文子)

現在の沢江婦人会

「前会長さんの時からの恒例になっていいる事業や、自分たちで出来る範囲のことを、皆で協力しあつてやっております。

しぜんと会員が少なくなつて

（今日はこんな日）

古平に鉄道敷設の朗報

昭和二年

大正九年、古平への鉄道敷設の案が町議会で採択され、毎年の請願がみのり、衆議院で採択となった。この好機に積丹半島各町村の漁港築設も併せて運動しようという趣旨で、『積丹半島鉄道漁港期成同盟会』総会が

きたことと、年齢が高くなってきたことが悩みでしょうか。」と丹後会長さんのお話です。

本年度の事業として

空缶拾い・公園の清掃・廃品回収・町内行事への協力(慰霊祭参拝、鯖つり節大会やロードレース大会・敬老会等)

米寿や喜寿のお祝い・新入生への贈り物

健康教室・親睦旅行・新年会

会長 丹後 初江

副会長 糸井はるえ

同 横山 光子

同 佐々木サダ子

会員 五十一人(四月現在)

(平成二年度総会議案より)

一月二十二日小学校で開かれ、期成同盟会長に山口金治が選任された。

十二月、余市・余別間三十三哩の鉄道敷設が、建設費七百八十七万八千円で決まったが、その後の社会情勢の激動により、この鉄道敷設は幻で終わった。漁港だけが当時想像もできなかった。い程の完備したものとなった。

昔の あそび 軍旗かじ

本 間 銀 朔

軍旗は、横一色、縦八十等位の寒冷紗（かんれいしゃ）という布地に、赤い絵具で十六本の朝日の線を入れる（軍艦旗より本数が多い）。三方の縁三等位を紫色に塗り、乾いてから鉄で切つて房にする。これを二位位の竹にしばり、竹の先には、木を五角錐に削つたものを竿頭として付け、これで出来上がり。同じようなものを二本作つて、一軍と二軍に分けられた組が一本づつ持つ。

現在の琴平神社の建っているところと、神社に向かつて右側の武藤沢さんの松林に、敵味方に分かれて軍旗探しとなる。前もつて上級生が、軍旗を竹竿に巻き、草むらか木の上に隠したものを、相手より早く見つけた方が勝ちとなる。

兵隊の肩章は、古はがきに赤

紙を貼り、黄色の紙で星の形を切り抜いて作る。一つ星は二等兵、二つ星は一等兵、三つ星は上等兵、金色の線の入った伍長には、一人か二人の上級生しかなれない。下の者は、なかなか上等兵にもな

紙を貼り、黄色の紙で星の形を切り抜いて作る。一つ星は二等兵、二つ星は一等兵、三つ星は上等兵、金色の線の入った伍長には、一人か二人の上級生しかなれない。下の者は、なかなか上等兵にもな

札幌通信

紙を貼り、黄色の紙で星の形を切り抜いて作る。一つ星は二等兵、二つ星は一等兵、三つ星は上等兵、金色の線の入った伍長には、一人か二人の上級生しかなれない。下の者は、なかなか上等兵にもな

紙を貼り、黄色の紙で星の形を切り抜いて作る。一つ星は二等兵、二つ星は一等兵、三つ星は上等兵、金色の線の入った伍長には、一人か二人の上級生しかなれない。下の者は、なかなか上等兵にもな

雪景色にホワイトイルミネーションが輝く中で、新年を迎えます。TV局は視聴率を気にしますが、こちらは『せたかむい』の減り具合を気にしています。ふるさとの埋もれている話題をお聞かせください。

雪景色にホワイトイルミネーションが輝く中で、新年を迎えます。TV局は視聴率を気にしますが、こちらは『せたかむい』の減り具合を気にしています。ふるさとの埋もれている話題をお聞かせください。